対談

豊かな自然と水の文化が残るまち 高島市

高島市長
福井 正明

全国滋賀県人会連合会副会長
京都滋賀県人会会長
石倉 宏

対談日：令和4年1月12日
場　所：高島市役所にて

「高島の　阿渡川波は　騒けども　我は家思ふ　宿り悲しみ」（『万葉集』）

多くの自然が残されている

石倉会長：今日は御多忙中、対談のために時間を割いていただき、ありがとうございます。

こちらへ参り、山々の一面の雪景色に圧倒される思いでした。自然が豊かだと思いました。

福井市長：高島市は自然が多く残されている地域です。道路等の交通インフラ基盤に弱点がありますが、そのおかげで開発の波に飲み込まれなかった部分があります。

コロナ禍でも一昨年、昨年と夏休みだけでなく一年を通して市内のキャンプ場に多くの方がいらっしゃいました。また、昨年末は大雪となり、スキー場は大にぎわいです。巣ごもりによるストレスで皆さん、外へ出たいのか、アウトドア志向の方が非常に増えたと思います。県内だけでなく、京阪神から多くの方がお見えになります。

また、琵琶湖畔に目を移しますと、今年の4月から安曇川町下小川地先に会員制リゾートホテルがいよいよ着工となります。当初は2020年に完成される予定でしたが、東京五輪に伴う建設資材の高騰や人手不足により着工が延期となっていました。コロナ禍においてはこれまでと同様に海外旅行にも行くこともできず、こうしたリゾートホテルの需要が高まっていると聞いています。高島市のブランド向上、地元雇用の拡大など多大な波及効果を期待しています。

「道の駅」の活用―新鮮でおいしい地元の「コメ」「野菜」「果物」

石倉会長：そうした中で、お客さんは「カネ」を落としてくれるのでしょうか。

福井市長：高島市内には「マキノ追坂峠」、「くつき新本陣」、「藤樹の里あどがわ」、そして、「しんあさひ風車村」という道の駅があります。

特に、国道161号線沿いにある「藤樹の里あどがわ」では来客数が年間およそ80万人に上り、その売上は8億円から9億円にもなります。地元の農家で育てられた新鮮な野菜や果物や琵琶湖で獲れた湖魚が店先に並び、大勢の買い物客でにぎわいます。県外からのリピーターも多く、特に京都の方が多いようです。

石倉会長：高島市のお米は県内でも美味しいとの評判を聞きますが。

福井市長：高島市内には知内川、石田川、安曇川、鴨川といった川があり、琵琶湖に流れ込む河川の約三分の一が高島市を水源としています。こうした清流や山から流れてくる雪解けの冷たい水により、市内でとれるコメは美味しいとよく言われます。

「日本の棚田百選」に指定されている畑地区の棚田米というブランド米は高い人気を誇り、琵琶湖ホテルへ提供されています。また、化学農薬等を使用せずに環境保全型の農法で有機米の栽培に取り組んでおられる農家の方もいらっしゃり、袋詰めされたお米は道の駅だけでなく、インターネットでも広く販売をされています。

おためし暮らし

石倉会長：湖西線は高架のため、片や琵琶湖、片や比叡の山並みの雄大な自然が楽しめますが。

福井市長：湖西線の利用促進や地域活性化のため、JR西日本と「地方創生に関する連携協定」を締結し、その一環の共同プロジェクトとして「おためし暮らし」を昨年より開始しました。

「都市圏で仕事を持ちながら地方に居住する」というコンセプトで、普段は高島市内の住宅に住んでテレワークをし、時々鉄道を利用して京阪神のご勤務先に出社していただくという仕組みです。出社時、JRを利用される際には運賃の優遇があります。高島市と関西の都市圏に新たな人の流れを作ることを目的として実施しています。

「生水（しょうず）」―かばた

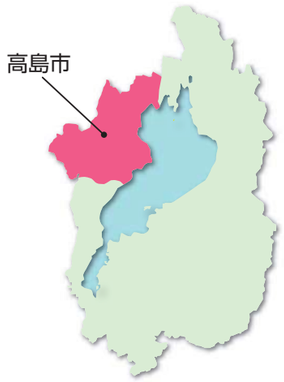
石倉会長：高島では「水」は昔から人々の暮らしに切っても切れない関係があったようですが。

かばた

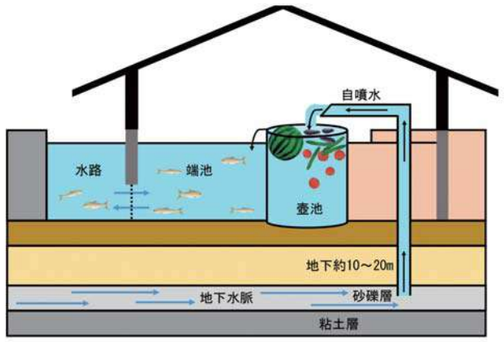
高島市の謂れ

日本最古の正史である『日本書紀』継体天皇即位前紀に「近江国高嶋郡」とあるのが初見です。『万葉集』などに「太加之萬」とあり、奈良時代には高島の名前が使われていたようです。その後、中世には佐々木信綱の次男高信が高島郡田中郷の地頭職になり、のちに「高島七頭」と呼ばれる佐々木氏の一族が活躍します。

高島市人口：46,864人（令和4年1月末）
（滋賀県人口の3.3%）
高島市の面積：約693平方km
（滋賀県全体の17.3%）



かばたの仕組み

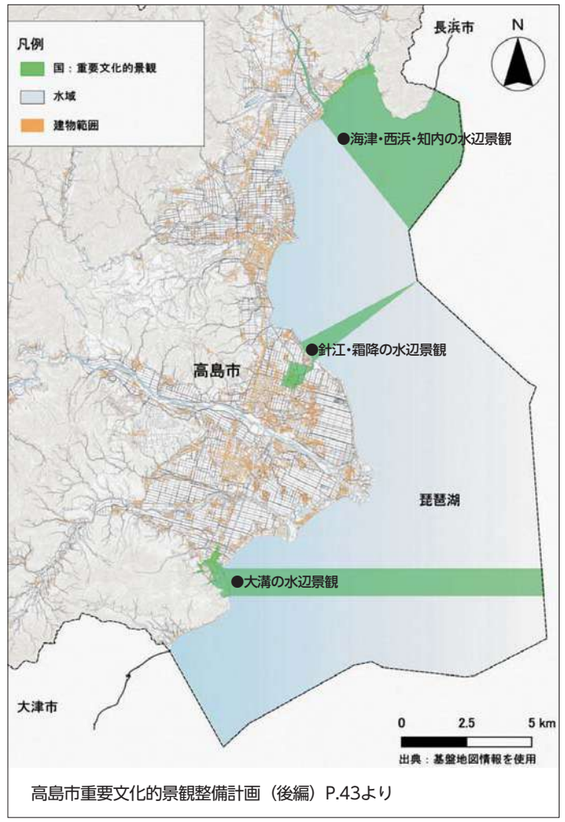


地面に鉄管を打ちこむと地下10～20mから「生水」が自噴してきます。水温は年間通じて約13度で、夏は冷たく冬は暖かいです。

生水が涌き出るところを「元池（もといけ）」といい、湧き出た水は飲み水などに利用されます。その生水は「壺池（つぼいけ）」に貯められ、野菜や果物を洗ったり冷やしたり、食器を洗ったりすることに使われます。さらに生水は「端池（はたいけ）」に流れ落ちます。端池ではコイやマスなどの淡水魚を飼っていて、魚たちが野菜くずやご飯粒、食べ残しなどをきれいに食べてくれます。こうして使われた水は水路に流れ、やがて琵琶湖へ注ぎ込みます。

海津大崎の桜並木

畑地区の棚田



高島市重要文化的景観整備計画（後編）P.43より

福井市長：高島には湧水（ゆうすい）や琵琶湖の水を生活に活かす先人の知恵や生活文化が色濃く息づいています。川の周辺の住民はかばた（川端）の湧水を「生水（しょうず）」と呼ぶこともあり、大切に利用しながら手入れしています。

市としては、「第2次高島市総合計画」のまちづくり方針にも掲げておりますように、生活文化を守り、「水」を大切にする生活環境を保全、継承し、「住みたい」「住み続けたい」まちづくりを目指しています。

日本遺産

石倉会長：話題を変えて次に、高島市も含めた「琵琶湖とその水辺景観」が「日本遺産」に認定されましたが。

福井市長：文化庁は歴史的魅力に溢れる地域の「たから」を磨き上げるため、平成27年に「日本遺産」を認定する制度を設けました。

その第1号認定の一つである「琵琶湖とその水辺景観」には、高島市内の白鬚神社や、清らかな水を暮らしの中に取り入れ、それを大切に使い続けることで作り上げられた文化的景観等が含まれています。

また、県下には「鮒ずし」などの独自の食文化や生業が伝えられており、それら全体が「水の文化」として評価されたのです。

海津の石積み

福井市長：高島市ではマキノ町の「海津・西浜・知内の水辺景観」も日本遺産の一つで、平成20年には「重要文化的景観」に選定されました。

その景観を象徴するものが「湖岸の石積み」で、西浜から海津の沿岸に高さ約2・5m、幅約1m、長さ約1・2kmの規模で波や風から集落を守るために築かれています。海津は塩津や今津とともに湖北の「三津」の一つとして繁栄した港町・宿場町です。

また、海津は「日本のさくら名所100選」に選ばれている海津大崎が有名で約800本のソメイヨシノが琵琶湖岸約4キロに渡り、毎年多くの花見客でにぎわいます。

海津の石積み

大溝の乙女ヶ池

白鬚神社の湖上大鳥居

大溝城跡を含む「大溝の水辺景観」

福井市長：「大溝の水辺景観」は、古来若狭と畿内を結ぶ港「勝野津」を中心とした地域です。そうした交通の要衝に築かれた大溝城は乙女ヶ池を防御のため利用した水城です。

江戸時代には大溝陣屋の城下町が整備され、現在は城郭内の出入りに使用された総門が現存し、歴史的シンボルとなっています。また、城下に整備された古式水道システムが今も継承されており、この地域の景観を詠んだ歌が『万葉集』に載せられています。

メタセコイア

石倉会長：ところで、水辺の景観、水辺文化をお聞かせいただきましたが、丘のほうでは、「メタセコイア並木」が有名ですが。

大溝城下古図（寛文４年）の陣屋・武家屋敷

集落中央を流れる水路

古式水道の遺構

滋賀県とうた

文化庁は、「日本遺産」として「滋賀県と大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市」を「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」に認定しました。（現在は長浜市・草津市・守山市・野洲市も追加認定されています。）いにしえから滋賀県を背景に詠まれた歌がたくさん残されており、中には日本遺産にゆかりの場所もあります。

大船の　香取の海に　碇おろし　如何なる人か
物思はざらむ（万葉集：乙女ヶ池畔にて／作者不詳）

何処にか　われは宿らむ　高島の　勝野の原に
この日暮れなば（万葉集：勝野にて／作者不詳）

旅なれば　夜中を指して　照月の　高島山に
隠らく惜しも（万葉集：高島山にて／作者不詳）

三尾の海に　網引く民の　ひまもなく
立ち居につけて　都恋しも（白鬚神社にて／紫式部）

しらひげの　神の御前に　わくいつみ
これをむすへは　人の漬まむ
（白鬚神社にて／与謝野鉄幹・晶子）

メタセコイア並木の紅葉

海津・西浜・知内の水辺景観

福井市長：当初この辺りには栗園を守るための防風林としてポプラ並木が植えられていましたが、昭和50年代に琵琶湖周辺を直撃した大型台風による強風でなぎ倒されてしまい、栗園も甚大な被害を受けました。そうした中、マキノ町果樹生産組合が熟慮の末、新たなる防風林としてメタセコイアを植えたのが現在のメタセコイア並木の始まりです。以来40年の間に大きく成長し、マキノピックランドからマキノ高原までの2・4㎞にわたって約500本のメタセコイアが春夏秋冬さまざまな表情を見せ、一年を通して多くの観光客でにぎわっています（表紙参照）。

また、平成28年10月に本市とフルタ製菓と締結した包括連携協定の取り扱いの一環として、「メタセコイヤチョコレート」と「メタセコイヤクッキー」を市内観光施設などで販売し、その売上の3％をメタセコイア並木の保全活動のために寄付していただいており、これまでに300万円を超える金額を市に寄付していただきました。昨年、この寄付金を活用し、メタセコイア並木の大規模剪定を実施しました。

近江聖人・中江藤樹と渋沢栄一

近江聖人・中江藤樹は、慶長13（1608）年、高島郡小川村の生まれです。王陽明の「知行合一」思想を広め、「日本陽明学」の始祖と言われています。

高島市安曇川町上小川にある「藤樹神社」は、大正11（1922）年に創建されました。

大正9（1920）年、高島郡長・佐野真次郎が神社創立運動（募金20万円）を展開、その中で県出身の教育者・杉浦重剛から紹介された人物が渋沢栄一でした。佐野の説明を受け、運動の顧問に就任し、自ら金1千円を寄付するだけでなく各界に寄付を呼びかけました。

渋沢はかねてから藤樹先生を尊崇し、その思想を咀嚼し、自らの言葉で藤樹精神を語っています。

メタセコイア並木

メタセコイアは中国原産で、スギ科の落葉高木です。和名はアケボノスギ、最高樹高は115mにもなります。セコイアに似ていることから「メタ」（変形または後）「セコイア」と名付けられました。

2016年の引越業者のCMに並木道が登場して人気になり、さらにウェブサイトの紅葉スポットへのアクセス数で全国トップクラスに。コロナ禍の影響がなかった2018年の来訪者数は約25万人、19年は約30万人が訪れました。

平成6年に読売新聞社の「新・日本街路樹百景」、平成22年に主婦の友社の「日本紅葉の名所100選」に選ばれています。

大溝祭

石倉会長：最後に高島市の「華」として「大溝祭」をとりあげたいと思います。

福井市長：大溝藩主・分部氏は、元和5（1619）年、伊勢上野（三重県津市）から大溝の地にやってきました。大溝祭はその頃に始まったとも言われています。祭は毎年5月に神輿と5基の曳山が町中を巡行する華麗なもので、昭和58（1983）年、滋賀県選択無形民俗文化財となっています。

カキツバタ群生地

大溝祭

石倉会長：それでは、最後になりましたが、全国の滋賀県人会会員にメッセージをお願いします。

福井市長：今回のコロナの難局はみんなが自覚して乗り切らなければいけない課題だと思います。ウイルスとの闘いはこれまでの人類の歴史でもあります。当時世界の人口の3分の1が感染した言われるスペイン風邪や最近ではSARSやMERSの流行が記憶に新しいですが、その度に人類の叡知を結集して医薬の開発等で乗り切ってきました。今回も新型コロナウイルスの収束までもうしばらく時間がかかるでしょうが、会員の皆様には健康に十分留意していただき、このコロナ禍を共に乗りきりましょう。その際には、自然にあふれた環境が魅力の高島市を是非とも訪れていただきたいと思います。

福井 正明（主なプロフィール）

生年月日　昭和27年（1952年）1月16日
出 身 地　高島市安曇川町

藤波幼稚園卒園、安曇小学校、安曇川中学校、高島高校、立命館大学法学部卒業

昭和47年4月　滋賀県庁に入庁
平成15年4月　市町村合併推進支援室長
平成19年4月　滋賀県 教育委員会 教育次長
平成21年4月　滋賀県 農政水産部長
平成24年3月　滋賀県庁を退職
平成24年4月　滋賀県 病院事業庁長
平成24年10月　滋賀県 病院事業庁長を辞職
平成25年2月　市長に就任
平成29年2月　市長に再任
令和3年2月　市長に再任

百貨店「髙島屋」

創業者は越前国敦賀の飯田新七。新七は真面目に勤めましたが奉公先の呉服屋が倒産してしまい、高島出身の飯田儀兵衛が京都・烏丸で営んでいた米穀商「髙島屋」の婿養子になります。

新七は天保2（1831）年隣に古着・木綿商「髙島屋」を創業、やがて呉服を扱うようになります。文久3（1863）年には新選組の隊旗「誠」の注文を、皇居造営の際には調度一式の注文を受けています。昭和8（1933）年に、東京・日本橋に「髙島屋東京日本橋店」オープン。

Takashima　City—a city with many rich nature landscapes and water culture

Two years ago and last year many people came to the summer camp. In the middle wintwer it was crowed with skiers. Everybody want to go outside　This city provides a place to enjoy the outdoors and extraordinary life, with natural landscapes remaining in the mountains,rivers and Lake Biwa. There are four “Michinoeki”,roadside stations ,one of which is “Adogawa”,where fresh vegetables and fruits grown by local farmers are lined up,2 million people visit by annually, and sales amount to 800-900 million yen. “Rice” grown in the cold water of the mountains is delicious and is also sold on the Internet. Rice terraces are bought by Biwako Hotel.

The “Takashima City Important Cultural Landscape Improvement Plan”　was formulated and certified as a　“Japan Heritage” as a “waterside landscape”.

There are three waterside landscape in Takashima　City: Harie/Shimohuri　area　,Kaizu/Nishihama/Chinai area ,　Ohmizo Area.The basic idea of waterside landscape maintenance is to protect and inherit the rich nature and pure water,and the living culture created , many people realize the charm of the area, want to live in these areas, and want to continue living. They promote the creation of a city where they can do it.

At Harie and Shimohuri, residents around the river call the spring water of “Kabata” “raw water” and carefully use and clean the water. At Kaizu, masonry is built on the coast with a height of 2.5m,a width of 1m　and a length of 1.2km to protect wind and waves.

At Ohmizo, “waterworks remains” have been detected as old-fashioned waterworks.

Local industries include “Takashima Chijimi”,“Takashima Canvas”,”Takashima Folding Fan”,”Warosoku” and “Brush”.